

[1] 宮崎市小体連（学校数48校、20,978人）

【研究部のあゆみ】

1 研究主題・副題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、
 豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習
 ～ゲーム・ボール運動（ゴール型）における、系統性を生かし
 “ひなた”の視点に立った授業の創造と展開～

体育科では学習指導要領の目標や内容が2学年ごとに示されている。それは学校現場での指導の裁量を高めるためである。また、児童の心身の発達は、個人差とともに運動能力や技能の習得は年次をまたいで継続的に行っていく性質が強いので、2学年を一つのまとまりとすることで、より無理なく段階的な指導が行えるようにするというねらいがある。その一方で、各学年での指導内容が明確でないことにより十分に学習成果を積み重ねられていないという課題的側面もみられる。

そこで、本市では領域をゲーム・ボール運動（ゴール型）とし、系統性を踏まえて学年ごとの指導内容を明確化することで、児童が無理なく段階的に知識や技能、戦術的な理解を深めることができるようにすることとした。

2 研究の内容

○ 体育科学習（ゴール型ゲーム・ボール運動）における系統性を生かした指導内容の明確化と課題の抽出

系統性を踏まえた上で、各学年で身に付ける内容を明確にし、児童が学習成果を積み重ねながら知識や技能、戦術的な理解を深めることができるようにする。また、3～6年の担任を受け持つ体育主任全員が単元計画を作成して一人一実践を行う。このことにより次年度以降の研究への足掛かりとし、実践後は各々が成果と課題を振り返り、それらを単元計画内に「児童の様相やゲームの様相」としてまとめることとした。

○ 「バスケットボール」のスキルアップテキストの動画版の作成

以前、宮崎市の小体連で作成していたバスケットボールのスキルアップテキストの動画版を作成する。し、指導者、学習者ともにより活用しやすくする。

○ 宮崎市小体連授業研究会の実施

本年度は4つの班に分かれ、そのうち3つの班で授業研究会を行い、授業の在り方や単元の進め方についての理解を深める機会とした。

班名	ICT 班	ハンドボール班	ラインポートボール班	バスケットボール班
担当	1, 2年担任	3, 4年担任	5年担任	6年担任
授業者	/	新原 美優 教諭 (広瀬小)	井上 華澄 教諭 (加納小)	渡辺 史弥 教諭 (檜北小)

3 研究の実際

(1) 体育科学習（ゴール型ゲーム・ボール運動）における系統性を生かした指導内容の明確化と課題の抽出

ゴール型ゲーム・ボール運動における各学年で身に付ける内容を以下のように整理し、共通理解を図った。

学年	種目	○身に付けさせる内容と●共通理解事項
4年生	ハンドボール	○ ボール保持者と自分の間に守る者がいない空間に移動する。 ○ 3人でボールを自陣から敵陣に運ぶ際は、真ん中のコースと両サイドのコースを走るようにし、ボールを持たない児童は、ボール保持者より前で受けることができるようにする。 ● ドリブルの代わりに、ある一定時間ボールを持って走ることができるようにすることで、ボール操作に囚われることなく周囲の状況を判断しながらパスやシュートを打てるようにする。
5年生	ラインポートボール	○ 4年生の学習内容に加えて、相手に取られない位置でドリブルができるようにし、適切な状況判断を行いながらゲームを進めることができるようにする。 ○ ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動する。 ● 真ん中のコースと両サイドのコースを走る3線速攻の形を攻撃の基軸とした上でずれてボールをもらう動きを取り上げる。
6年生	バスケットボール	○ ゴール下でのシュートチャンスにつながる形でボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動する。 ○ 自己やチームの特徴に応じた作戦を選ぶ。 ● 4, 5年生までの学習内容（3線速攻、ずれる動き）を身に付けさせた上で、ゴール下でのシュートチャンスにつながる動きを取り上げる。

上記の整理内容を踏まえて単元計画を一人ずつ作成し、授業実践を行った。図1は5年生ラインポートボール班の体育主任が整理内容をもとに作成した単元計画である。この単元計画では、第2時にドリブル、第6時にボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動するといった学習内容を位置付けている。また、単元計画の下の欄には児童や授業の様相を記入するようにし、毎時間の授業の成果や課題を記入することで実践上の課題を収集するようにした。

	1	2	3	4	5	6	7
指導内容	1 知識（ポートボールのルール）	3 技能（ドリブル）	技能（味方にパスを）	4 技能（味方にパスをする）	1 思考・判断（簡単な課題の選択）	1 思考・判断（簡単な課題の選択）	思考・判断（簡単な課題の選択）
指導内容		3 責任・態度（準備や片付け）			2 共生（友達を認める）		
学習過程	オリエンテーション 1 準備運動 2 説明	【ねらい1】 ボール運びの基本的な動作を身に付け、ドリブルで進もう。 3 本時のねらいを確認する。	技能を高めよう。 ドリブル		【ねらい2】 チームの特徴に合った作戦を考えて、実行しよう。 1 集合・整列・指導 2 準備運動・スキルアップドリル 3 本時のねらいを確認する。		
学習過程	3 学習の 内容 4 ルール	4 本時の学習の確認 「ボールを運ぶのに、ドリブルで進もう。」 5 課題解決の運動 ・まっすぐ ・ジグザグ	本時の学習の確認 動きながら、パスをしながら、進もう。」	4 本時の学習の確認 「ドリブル、パスをしながら、進もう。」	4 本時の学習の確認 「走るコースに気づいてボールを運ぼう。」	4 本時の学習の確認 「もう位置に気づいてボールを運ぼう。」	本時の 学習 内容 5 タスク ゲーム （5分間）
学習過程	5 毎時間 取り組む 運動の 練習		課題解決の運動 2人で 3人で	5 課題解決の運動 ・2対1 ・3対1	5 タスクゲーム （5分間） 6 タスクゲームの振り返り	5 タスクゲーム （5分間） 6 タスクゲームの振り返り	本時の 学習 内容 5 タスク ゲーム （5分間） 6 タスク ゲームの 振り返り

【図1：ラインポートボール単元計画】

(2) 「バスケットボール」のスキルアップテキストの動画版の作成

宮崎市小体連が以前作成したバスケットボールのスキルアップテキストの中から活用が多いと思われるスキルアップテキストを抽出し、その動画版を作成した。作成したものは宮崎市小体連のホームページにアップして指導者や学習者が活用しやすくした。

(3) 授業研究会

第5学年のラインポートボールの授業は、「チームの持ちようにあった作戦を考えて、ボールを運ぼう」の〈めあて〉のもと学習に取り組んだ。児童は、前時まで高めた技能を使い、チームの特徴に合った作戦を考えながらゲームに取り組んだ。その際、走るコース（左、真ん中、右の3線）を意識させるため、真ん中と左右にケンステップを置き、そこからスタートさせるようにしたことにより、密集型のゲームにならず、うまくスペースを作りながらボールを運ぶことができていた。



【写真1：5年ラインポートボールの授業の様子】

4 成果と課題

- 4, 5, 6年生というつながりの中で、研究の実際の（1）に示したように系統性を生かして各学年で何を学ぶかを明らかにすることができた。
- 全員が一実践を行ったことで、経験の少ない指導者もゴール型ゲーム・ボール運動の授業作りの視点などについて研究を深め、授業力の向上につながった。また、実践中での授業の様相を記録し、それらを集約したことで、各単元の指導において、教師や児童のつまづきを洗い出すことができた。来年度はこれらのつまづきを基に、それらを解決するための手立て等について研究を深めていく。
- 授業研究会では、「授業参観」、「事後研究会」、「実技指導」の柱で会を進めたことで、参加者にとって授業の作り方だけでなく、各運動の特性の理解にもつながる内容にすることができた。写真2は、授業研究会参加者の感想を抜粋したものである。
- 今年度は系統性について研究を深め、それぞれの運動の課題を収集できたので、次年度はひとりひとりの問いのもとせ方などのひなたの学びについての研究をさらに深めていきたい。
- ハンドボール、ラインポートボールについてのスキルアップテキストがまだ無いので、それらを作成し、活用をはかっていく必要がある。
- 作成した3つの単元の実践例を各学校に周知し、体育主任以外の職員にも実践してもらおう必要がある。

<p>同じような悩みに対する解決策や具体的な練習方法を知ることができ、自分の学級で実践することができるといった。</p> <p>現在実際にポートボールを授業で行っているので、授業研究会での話がとてもためになり、次の日の体育で、即実践することができた。また、実技研究会において自分自身が体感することで、授業での子どもの困り感がよくわかった。</p> <p>まず、低学年をしながら他学年の授業を見れるというのが大変ありがたく、学びになるし、刺激がもらえます。大変ありがたいです。普段誰もが悩んでいることについて意見交換ができるのは貴重でした。</p>

【写真2：研究会参加者の感想】